

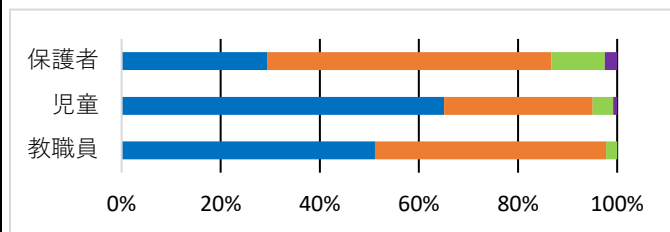
令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

①命を大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

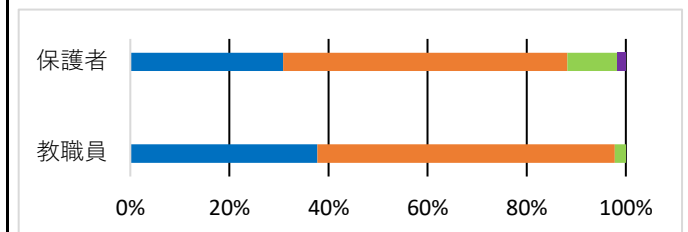
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。

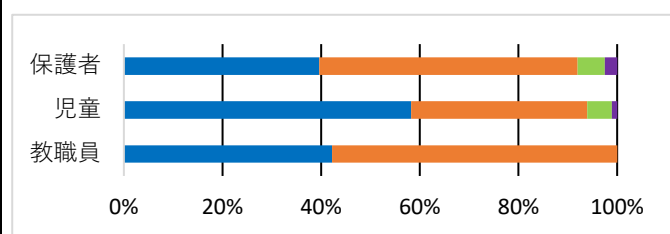


【学校より】令和3年度と比べると、「一人一人の児童生徒の尊重」では児童の肯定的意見が約3%増加している。しかし、保護者においては、肯定的意見が3%減少した。児童には、毎月のスマイルアンケートによる丁寧な対応、朝からの「ちょボラ」活動の充実に取り組んでいることを全保護者が理解できるよう努めたい。また、心かがやけ月間を中心に取組を充実させ、学校と家庭で子どもの心を育てる取組を行いたい。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

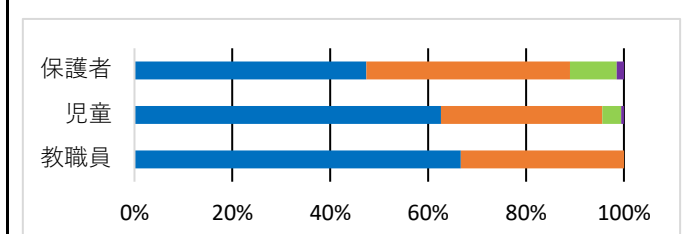
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

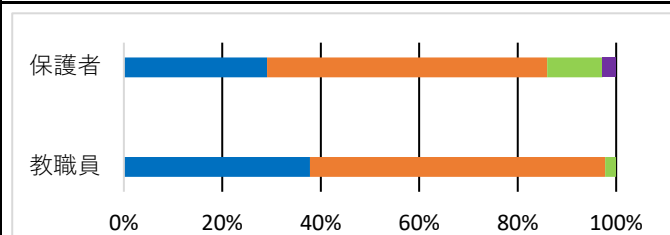


【学校より】令和3年度と比べると、「授業力向上」では、児童が2%、肯定的意見が増加した。保護者では肯定的意見が1%減少した。また、「タブレット端末活用」では、令和3年度に比べ、肯定的意見が児童では1%増加、保護者では1%減少した。本年度の重点実践事項「『教わる』授業から『学びとる』授業改善」「教科横断的なプロジェクト学習の推進」等により授業改善を行ってきた。今後はさらに、保護者にも伝えるように、発信にも力を入れていきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

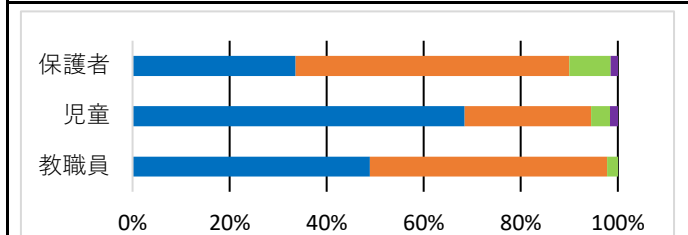
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

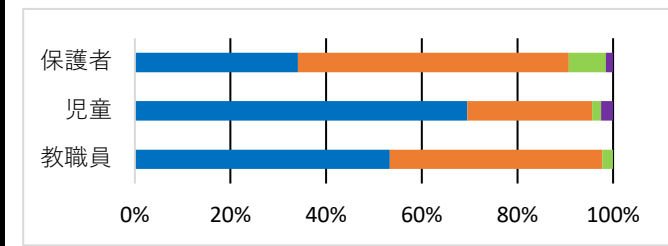


【学校より】「学校の支援体制」では、令和3年度と比べると、保護者、教職員ともに変化はなかった。「共生社会を担う人材の育成」では、令和3年度と比較すると、肯定的意見が保護者は1%増加、児童は2%減少であった。これまで培ってきた熊本支援学校との交流教育や校内での交流教育が評価されたと考える。また、児童理解夕会等で、ケース会議の報告を行い、職員の共通理解を図ってきたことで、ニーズに応じた教育にも力を入れてきた。来年度も継続して取り組んでいきたい。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

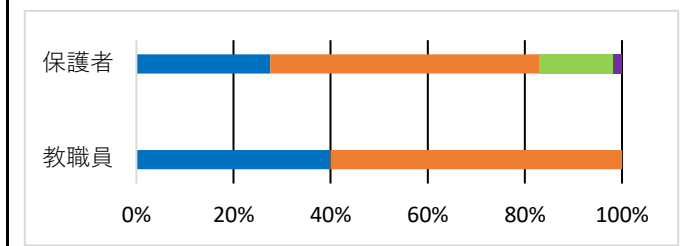
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

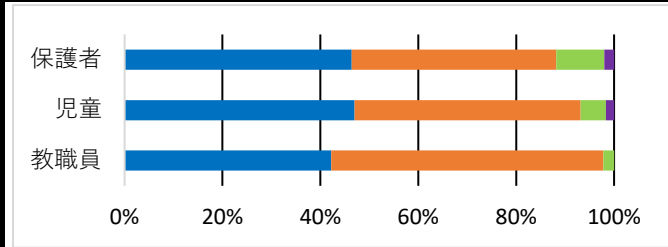


【学校より】「安全と事故防止」では、令和3年度と比べると、教職員の肯定的意見が2%増加したものの、保護者では2%、児童では1%減少した。「家庭や地域との連携協力」では、令和3年度と比較すると、肯定的意見が保護者は2%増加した。本年度の重点実践事項「最適な教育環境の整備」や毎月の安全点検及び修繕に取り組んだことの結果であると考えられる。また、交通安全協会の方やPTAによる毎日の交通指導により児童の安全確保がなされているといえる。今後も、継続して安全対策等に取り組んでいきたい。

⑤本校の教育

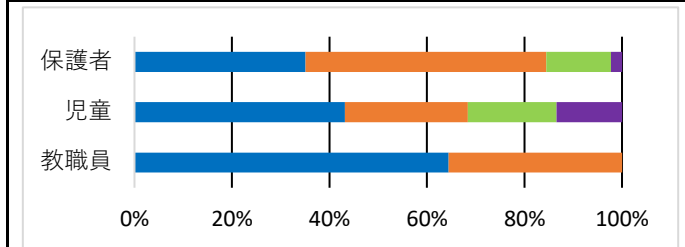
9 あいさつ

学校は、あいさつができる児童の育成に努めていると思いますか。



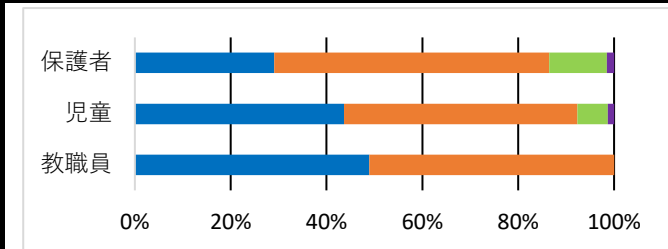
10 体力向上

学校は、積極的に運動する児童の育成に努めていると思いますか。



11 主体的な学び

学校は、主体的に考え学ぶ児童の育成に努めていると思いますか。



【学校より】令和3年度に比べると、「あいさつ」では肯定的意見が、児童は7%増加した。しかし、保護者は2%減少した。「体力向上」では、肯定的意見が前年度より保護者、児童ともに2%ずつ減少した。「主体的な学び」では肯定的意見が、児童7%増加であったが、保護者は1%減少した。主体的に学習に取り組んでいると感じている児童の増加は、授業改善が図られている結果である。学校での取組が保護者にも伝わるように、今後、発信に力を入れたい。

来年度の具体的な取り組みについて

今年度の傾向として、児童の肯定的意見が増加しているという結果が挙げられる。学校教育目標「主体的に考え、仲間と協働し行動できる子どもの育成」のための各種の取組により児童に好影響を与えているといえる。来年度も、子ども一人一人に丁寧に対応し、成長を支えていきたいと考えている。また、保護者の傾向として、肯定的意見が減少傾向にある。一つ一つの活動や教育的意義を積極的に学校だよりや学校ホームページ等で発信したり、PTAホームページ等にも掲載依頼を行い、子どもたちの成長が目に見える取組を実施していきたい。また、12月の授業参観時に、評価回答を得るように努めたい。

学校関係者評価

- ・子どもたちとは、フッ化物洗口、朝のあいさつ運動、下校時の見守りで接している。年々、あいさつができていように見受けられる。
- ・部活動が社会体育化したが、体力面では現状を維持しているということであった。学校での取り組みに感謝したい。
- ・不登校者数について、数値的に何件あり関わりによって、どのような変化があったのかを明記してほしい。
- ・体力向上のために、年間をとおした持久走に取り組んでみてはどうか。